

東村山稲門会ニュース 第8号

平成 9年11月 8日 発行

発行責任者 大西 幸夫
編集局 塩見 之一
田口 政澄
事務局 0423 94 6951
小亀 輝雄

会からのお知らせ

1. 12月定例会の日時・場所
日・時 12月6日(土) 14時～17時
場所 ふるさと歴史館研修室
内容、11月15日(土)の1周年総会の反省会および会報第2号発行打合せ。
会員の方はどなたでもお気軽にお立ち寄り下さい。

2. 校友会などの情報

2-1 校友代表者会

10月18日、16:00～17:30

於 大隈会館N棟 3F

奥島総長の挨拶に続いて各学部代表者の学部近況説明、中島校友会代表幹事から校友会活動の現状と方針、校友会代表挨拶などが行われました。

特に今年は4月開設予定の大学院、アジア太平洋研究科の説明および週刊現代9月13日号の早稲田大学に関する事実誤認に基づく論評に対する大学の抗議模様が大学広報室から説明がありました。

また、質疑応答では大学キャンパスの一部学生による汚され様を憂う声や奥島総長への続投希望や活動の期待と激励などがありました。

なお、当会会員では大西幸夫および大学側出席者として小亀学生部長、井原財務部長、上教務部事務部長が出席しました。

(以上 大西)

2-2 小平稲門会第9回通常総会

出席報告

副会長 三宅良太

とき：平成 9年10月 5日(日) 14時～17時

ところ：小平市民文化会館(ルネこだいら)

第一部 通常総会 14時～14時30分

議長 岡田 憲樹 会長 (22法)

第二部 記念講演会 14時30分～15時30分

「動きだした教育改革

－生涯学習社会をめざして－

西村 弘 小平市教育長 (35教育)

第三部 懇親パーティ 15時30分～17時

出席者 早稲田大学：安宅武一校友会

常任幹事他 1名

小平市：前田 雅尚 小平市長

他 1名

多摩地区稲門会：9団体代表者

10名

会員：75名

余興として河津哲也(早大高等学院教員)氏の草笛の演奏等がありました。

配布資料 小平稲門会会報 第8号他

2-3 その他

小金井稲門会年次総会に小亀さんが出席する予定となっておりましたが、当日の突発事で職責上出席不能となりましたため已むなく欠席しました。

記事補足

稲門会ニュース第7号の「この一年を振り返って」の記事の内、有志ボストマンの名簿に

美住町 三宅 良太さん

の追記をお願いします。

三宅さんに失礼をお詫びします。

(田口)

同好会だより

会員の方々の横の連携を強めるための一助にと現在、絵画、郷土史の会、音楽、ゴルフ、麻雀の各同好会が精力的に活動してまいります。関心のある方は気軽にご参加下さい。

以下に着順に各同好会からの便りを掲載します。(塩見)

郷土史の会

11月は総会月に当るため熟成期間とします。

連絡先 三宅 良太(94-5298)

絵画同好会

○ 定例連絡会のお知らせ

会員間で市内・外の絵画環境変化の情報交換を行います。

11月22日 於 中央公民館1F ロビー

連絡先 宮 (91-7542)

or 塩見 (95-3718)

♣ 麻雀クラブ

ニュース第7号掲載の麻雀大会の締切りを第2回総会後初めて稲門会に参加される方々に対する配慮から下記のように延期致しました。奮ってご参加下さい。

記

申込締切 11月20日(土)

申込先 田口 政澄 TEL 95-4077

(田口)

編集局だより

ニュース第7号でお知らせしましたように編集部の体制が充実して参りましたので、今後は編集局と仮称することに致します。

当面、現在の編集方針を維持して内容の充実をはかることのほか、第4号で触れました情報の双方向性化をはかることの具体化が今後の課題になるのではと予測しております。当然のことではありますが、会則第15条に抵触する投稿などは大学の名と我々の善意のボランティア行為に対する侮辱でありますので排除せねばなりません。反面、第2次大戦以前のどこかの国のような堅苦しい軍・官規制類似は情報の双方向性化と全く相いいれないため避けねばなりません。

何故判りきったことに紙面を費やしているのかとお叱りを受ける覚悟で続けますと、退職後約十年間に市内の数多くのカルチュア団体を主宰或いは協力・参加して知り得たことは、

- 市内の方々の早稲田に対する関心が極めて深く、例外無く敬意を払われる。
- 現在、市稲門会は市内最大のインテリ集団として印象づけられつつある。
- 創立総会後に各所に配布された会報第1号は好意をもって迎えられた。

以上から前記ニュースの編集方針および今後のニュース紙面上の会員間の情報交換についても、上記を知れば会則第15条によるまでも無く外に対して稲門会員としての品位を損うことは有り得ないのですが、上記が会員間に浸透するまでに若干の時間がかかることを虞れ敢えて筆を握りました。

投稿の具体的なしおりは、ニュース第10号に掲載予定です。

テーマはノンフィクションの体験談、国内外の紀行文および俳句・短歌を予定しております。ペンネームや俳号を使うことは自由ですが、必ず実名を添書きして下さい。詳細はニュース第10号をご覧下さい。(塩見)